３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森

不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.502-503

キンドリングクラッカー中毒者が続出

【定例活動報告】知足の森

第１日曜日の活動より

　はじめて活動に参加される方、久々に参加した“若い衆”といったメンバーであったため、午前中はフィールドの紹介と同時に台風の爪痕を見て回りました。今更ながら水の力に驚くばかりでしたが、約２年前から手を入れているお寺の雑木林の“護岸”が一定機能していました。また、参加メンバーを考慮し、お寺の裏で何本か間伐しました。ここでも光りが入りやすくなった斜面には下草が繁茂しており、“護岸”とともに、人の手と里山のかかわりを感じました。
　午後は、嵐山の片づけを手伝いましたが、『キンドリング・クラッカー』を使った薪づくりは中毒性が強く、いったん作業にはまると際限がなくなってしまいます。気が付いたころには、薪は増えているものの、手のひらが打撲状態でした。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

穏やかな一日でしたが、日陰の冷たさに秋の深まりを感じる一日でした。

粟田浩史（本会、会員）

今日は地球環境部からは2人のみ参加で、非常に人数が少なかったため、粟田さん、角田さんらと共にいつもとは少し違った形で活動した。また、今日は横浜で小学校教諭をしている山田さんも初参加！様々な話をして、有意義な時間を過ごすことができた。

活動内容は、午前中に先日の台風19号で土砂崩れを起こした場所を見回りつつ、細い木を間伐。神社の階段部分など様々な場所が崩れ、道路脇にはけてある土砂の中にはかなり大きな岩もあり、自然災害の恐ろしさを改めて感じた。お昼をはさみ、午後は嵐山に残っている丸太から薪を作成した。これはかなり大変な作業だった。最後は畑でさつまいも掘り。掘ったさつまいもだけでなく、里芋と大根もいただいた。家に帰って早速食べたさつまいもと里芋はとても美味しかった。

活動中話題のひとつに上がったのが「森林環境税」についてだった。私は知らなかったのだが、国民1人につき1000円で年間620億円もの財源になるそうだ。これが適切に使われれば日本の林業従事者、整備される森林は増加するはずだ。日本の森林の明るい話題を聞いて、自分もさらに関わっていきたいと思った。

永井　伶（東京都立駒場高等学校３年）

第３日曜日の活動より

第３日曜日の活動は、嵐山の残材を片付ける！をテーマに一応、これまで地球環境部に参加してきたオールスターで作業する、という号令のもと中学生から大学生が集まりました。一応、各学校３年生は免除としたこともありましたが、一気に片付けを実施できそうなメンバーが集結しました。森林整備班とも合流し、まずは嵐山へ。山の中から農道脇までは運んであった材を、製材していたとして活用できるもの、スウェーデントーチとしてForesTo Classが使えるもの、薪にしかならないもの、薪にもならないものに分けていくことにしました。これまで数年に渡り、森に参加しているベテラン揃いだった今日は、今何をすべきかわかっているので、作業は本当にスムーズでした。私もついついチェーンソーで玉切りに夢中になってしまっていましたが、その脇で分担作業がどんどん進み、あっという間に目的が達成され、気づけば、キンドリングクラッカー大会が始まっており、見る見る薪が積まれていくのもそれはそれで圧巻でした。

その後、次の週末に東海大高輪台高校がSSHを行うフィールドの準備を行いました。これまで嵐山をベースに年１回森林実習を行ってきましたが、活動地の変更に伴い、この活動も長福寺知足の森に移すことになりました。ただ、活用しようと思っていた斜面までの道のりが草が伸び放題であるため、少なくとも集合場所までの道を確保する、を目標に数人でそちらに移動しました。まだ境界線が確定していない部分があったため、本当に人が通れるだけの草刈りとし、作業を行いました。（その後のGPSで活動地がほぼ確定できたので、作業道を整備しただけであることも確認できました。）この斜面もかなりの期間手入れがされていなかったようなので、今後、同校の活躍により、全体像が明らかになっていくのが楽しみです。

宮村　連理（本会、副理事長）

桜井尚武の森のコラム　「キブシ（*Stachyurus praecox*）」

図1．総状花序20190405六義園

樹高3m程度の落葉低木で低山地域に普通に見られる低木です。春先に開葉に先立って多数の黄色い花が連なった総状花序を下垂させるので（図1）、結構目立ちます。雌雄異株で雌花は総状花序が雄花よりも短いそうですがハッキリした区別は難しいようです。花を覗いてみると雌花はおしべが退化して長い一本のめしべがあるのに対し雄花は8本のおしべがハッキリ見えるので区別できます（図2）。葉の側脈がくっきりとくぼんでいるのをこの種の見分けポイントにできます（図3、4）。

図2．キブシの雄花20190328皇居東御苑

果実（図3）はタンニンを多く含んでいて、フシノキ（ヌルデ(*Rhus javanica*)の異名、五倍子）の代用にされたといい、キブシは漢字では「木五倍子」と書きます。黒色の染料に使われたほかに、かつての風習であるお歯黒にも用いられました。お歯黒に使う鉄漿（かね）はタンニンに鉄を作用させて黒い染料を作ったものですが、濃いお茶と鉄の組み合わせ、ヌルデの虫こぶ（五倍子粉）と鉄の組み合わせが普通のようです。しかし、実際には居住地の周囲にあるタンニンを含む様々なものが使われたようでキブシもその一つでした。それで「木五倍子」との呼び名ができたのでしょう。他に、キブシの太い髄を取り出して燈心に使ったそうでズイノキ、トーシンノキという地方名があります。また、髄を取り出す様からツキダシノキという名もあるそうです。この他にもアカシバやウツギなど地方により様々な呼び名があって、広く利用されていたことが窺えます。

図3. キブシの実20070922藤沢

図4. 晩秋の総状花序20191104東高根森林公園

晩秋のキブシはもう春に向けての総状花序を用意しています（図4）。このキブシの総状花序は開花して受粉する前は山菜としておひたしやてんぷらにして食べることができるそうです。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】地球環境部

９月２１日からの３日間、横浜のセンター北駅直結のノースポートモールで積み木イベントを実施しました。この企画を一緒に行った学芸大子ども未来研究所のスタッフの方からコメントが届きましたのでご紹介します。

この企画で私自身が一番大切にしていたことは、積み木を人と人とを繋ぐ、「コミュニケーションツール」として捉えた点です。スタッフとして参加してくれた中高生や大学生は、通常、作品制作が主な活動だと伺っておりましたので、このイベントでは、初めて出会う人と一緒に膨大な積み木で遊ぶ活動を体験し、その活動から積み木の新たな役割を発見してもらえるような環境作りを意識しました。

そこで、以前私が携わった子ども達の創造性を育むことを目的とした公共施設で一緒に活動をしていたメンバーを集め、中高生と大学生含めたスタッフと参加する子ども達と一緒に、積み木で遊んで欲しいということだけを伝え、このイベントにスタッフとして参加してもらいました。

その結果、彼らは目の前の子ども達の興味・関心に合わせて、積み木で遊び、さらにその遊びを拡張させるような活動を次々に生み出してくれました。さらに、その輪の中にスタッフの中高生や大学生が参加する流れが自然に生まれ、イベント全体として、30,000個という膨大な数の積み木で、誰でも一緒に楽しく「遊べる場所」を実現することができました。

最後に、当研究所監修のイベントに多大なご協力いただき、宮村先生を初め、当日スタッフとして参加してくださった皆様にも、心より感謝申し上げます。イベント当日は、当初の予想を上回る大きな反響をいただくことができました。本当にありがとうございました。このような活動が全国的に広がっていくことを、心より応援しております！

長岡　亜矢子
（東京学芸大こども未来研究所）

【若者の森づくり】ForesTo Class

11月17日 嵐山での丸太処理とトーチ作製

今回は嵐山での間伐材を処理するため、丸太から薪にしていく作業をしました。
その中で腐敗なく、乾燥されている材を選定させていただき丸太トーチづくりも行いました。

～活動前に弁天島を歩く～

嵐山へ向かうために小原の甲州古道からつなぐ弁天島ルートを歩きました。
久しぶりに歩きましたが、沢から相模川本流へつながる入り江は相変わらずキレイな景色でほっとしました。

しかし、台風の影響からか沢の音は大きく、周りも荒々しい状態で鬱蒼としたところもありました。

この辺りの治水の働きについて、スケールは一体どこまでなのかと考えさせられました。

～嵐山での薪割り～

現場到着後、チェーンソーが動かず修理している間に、緑のダムに参加した子どもたちが処理している丸太の薪割りに加わりました。

薪割りの簡易装置があり、大ナタで割るのではなく、装置についている刃に丸太を固定して大槌で叩いて割る手法が面白く夢中になりました。
これは安全ですし、二つ割りからであれば子どもでもできるので良い道具だと感じました。
その薪と丸太ストーブで火を起こすのも面白いと思います。

例えば、間伐体験の実施を企画する。そこで終わりでなく、乾燥工程が終わったら2回目の体験では薪割りをやってもらう。

木を切ってそれを利用するところまでできると森林の利用価値を高めることにつながります。

自分は嵐山では学生時代からお世話になったので、今回の材の処理については特別な思いがあります。

嵐山に対して恩返しする意味を込めて、20本前後の丸太を薪割りしました。おかげで翌日以降筋肉痛に悩まされましたが、良い運動になりました。

～丸太トーチづくり～

薪割りしていく材の中で、腐っていなく乾燥が程よいものを選定してトーチづくりを行いました

チェーンソーで縦割りするようなイメージで切れ目を入れますが、筋に対して平行なので時間と燃料を費やしました。

チェーンソー以外の機械で簡単に切れるような工夫があれば大量生産できるので今後の課題とします。また乾燥、保管するスペースもなく、これから活動していくにあたり考えていきたいです。

先日行った間伐体験やキャンプ、山を歩くなどのイベントを組み合わせてこの丸太ストーブを活用していく予定です。将来的には販売もしてきたいです。

次回は小原エリアの長福寺さん奥のフィールドへ入っていきます。新たなフィールドが見つかっていませんがここをきっかけにしたいです。

滝澤　康至（ForesTo Class）

■ 林業プロの視点 ～二藤の眼～

今回から仕事として林業を行なっている立場として、全体の活動を通して感じた事や改善点などを少し書かせてもらう事になりました。

これが今後の活動をしていく上で少しでも何かのお役に立てたら嬉しいです。

さて、今回はチェーンソーの故障を通し『道具を扱うにあたっての注意点』について書きたいと思います。

まず今回の活動で結構、前から動かないチェーンソーがそのままにしてある事が発覚しました。そして、何が原因か考えられる事を順々に探っていった結果、２つ推測されました。

[1]何回も何回も誤ったエンジンのかけ方をした事で、エンジン内に異常なほど燃料を送りこんでしまい、爆発がおきない。

[2]使用している燃料比がメーカー指定は50:1だが、ずっと25:1の濃いものを使用していたためエンジン内にカーボンが溜まってしまい、爆発がおきない。

というもので、この故障の修理は自分でやるとなると膨大な労力がかかるので病院行きとなりました。

それでは、なぜ、このような事か起きてしまったのか？、それは『説明書をよく読まず道具の正しい使い方をよく理解まま誤った使い方をしてしまった』ためです。

チェーンソーに限らず、ナタやノコギリなど道具は必ず正しい使用方法があります。それを守らず使用すると、消耗が激しくなり道具が痛む、そして今回みたいな故障に繋がる、また事故が起きるリスクも高くなります。

機械系の故障や摩耗、事故の原因のほとんどはヒューマンエラーで、私たち林業界でも重機をよく使用しますが、それらの故障も多くが誤った使用方法をした結果、またその蓄積によるものです

道具は正直でその持ち主の心が表れると言われ、その人の指示通り、扱い方通りにしか動きません。だからこそ、その道具をよく理解し、正しく使う。そこにはメンテナンスも含まれています。

なかなか説明書を読むのは面倒ですが、ポイントだけで良いです。道具を理解する努力も今後のボランティア活動に必要ではないでしょうか？

自分もそのポイントをお伝えする事に何か貢献していけたらと思います。

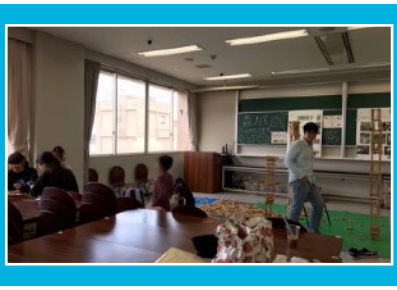
二藤　政毅（ForesTo Class）

【若者の森づくり】
Forest Nova

今回は10月26日27日に麻布大学大学で学園祭を行いました。積み木、木工体験を行い2日間で200人以上の人に来ていただきました。来場者のほとんどは子供ずれやご老人などで、子供は積み木で遊んだり木工で作品などを作っていました、ご老人は自分達の活動や緑のダムの活動にも興味を持ってくださり活動のチラシを積極的に持って行きました。

今回の学園祭では積み木を使うことで子供たちに自分達の活動を説明しやすく、来場してくださった人達にも干ばつなどに対して興味を持ってくれた人などが多くいて目標である自分達や緑のダムの活動を多くの人に知ってもらうことができました。

山口　拓海（Forest Nova）



【事務局から】

各種イベント、体験活動を実施しています。

11月は多くのイベント、体験活動の受け入れを実施しました。順次ニュースレターでも報告していきます。今月号では概要だけお伝えします。まず地元の相模原市立桂北小学校の５年生１５名の総合の時間のお手伝いをさせてもらいました。事前授業１時間を宮村が、竹林整備半日を川田、小林、宮村の３名で、また知足の森での間伐体験（写真左）も同３名で実施しました。

30日は東海大高輪台高校SSHの受け入れ、高校１年生４０名が活動に参加。こちらも事前授業１時間（写真右）と現地で1日実習を行いました。桜井先生、川田、粟田、木村、宮村で対応し、間伐、下草刈り、植生調査、測量と４つの体験を１０人ずつで行いました。他にも、23日土曜日には雨天となってしまいましたが、こがねい環境フォーラムで積み木広場、13日に国分寺市でのNPO助成金運用についてのワークショップの講師、26日には相模原市ホットカフェで活動紹介などなどを広報活動も精力的にエネルギーを注いでいます。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構

協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

フォレストサポーターズ　www.mori-zukuri.jp　緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM